| 学校番号 | T3009 |
|---|---|

# 令和８年度　工業科

| 教科 | 工業 | 科目 | 建築実習(木材加工) | 単位数 | 1単位 | 年次 | 2年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | | | | | | | |
| 副教材等 | | | | | | | |

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

わが国では、古くから建築材料として木材が用いられてきました。そのため、それらの加工技術や工具、工作機械などについても、多種多様な発展をしてきました。この実習では、それらの加工技術の基本を学ぶとともに、それらを用いて木材を用いた作品制作や木造住宅の建築部材の製作などを行います。2年次では、主に手動の工具で木材の加工をしながら木材の性質も合わせて学ぶことになります。
授業期間は前期もしくは後期で、2年次の実習2単位のうちの1単位に相当します。

2　学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
【知識及び技術】工業の建築分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】工業の建築分野の技術に関する課題を発見し，工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】工業の建築分野に関する技術の向上を目指して自ら学び，工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技術 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 工業に関する要素的な内容について工業の建築分野での学びを踏まえて理解するとともに，工業に携わる者として必要な技術を身に付けること。 | 工業の建築分野に関する技術に着目して，工業に関する要素的な内容に関する課題を見いだすとともに解決策を考え，科学的な根拠に基づき結果を検証し改善すること。 | 工業の建築分野に関する要素的な内容について自ら学び，工業の発展に主体的かつ協働的に取り組むこと。 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元（題材）の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 前期 | 木工機械 | 工具・機械の種類<br>工具・機械の取扱 | a:木材加工の工具・機械の安全な取扱について理解している。<br>b:木材加工の工具・機械に関する基礎的な知識や技術をもとに、身近な建築物を観察し、自ら構想する建築物に適する工具・機械を適切に判断し、選択できる能力を身に付けるとともに、その成果を適切に発表できる。<br>c:木構造に用いられる工具・機械に関する基礎的な知識や技術に関心をもち、その習得にむけて意欲的に取り組むとともに、建築製図や建築構造など関連する科目に活用しようとする実践的な態度を身に付けている。 | 確認テスト | 提出ノート | 提出ノート<br>振り返りシート |
| | 木材加工 | 継手の加工<br>（腰掛鎌継） | a:木構造に用いられる継手に関する基礎的な知識や技術を身に付け、現代の技術の観察をふまえ、産業社会や生活文化における木構造に用いられる継手の意義や役割を理解している。<br>b:木構造のうち、おもに在来軸組構法に用いられる継手に関する基礎的な知識や技術をもとに、身近な建築物を観察し、自ら構想する建築物に適する継手を適切に判断し、選択できる能力を身に付けるとともに、その成果を適切に発表できる。<br>c:木構造に用いられる継手に関する基礎的な知識や技術に関心をもち、その習得にむけて意欲的に取り組むとともに、建築製図や建築構造など関連する科目に活用しようとする実践的な態度を身に付けている。 | 課題の作成状況<br>技術の習得状況 | 作業記録簿 | 振り返りシート |
| | | 仕口の加工<br>（土台隅部等） | a:木構造に用いられる仕口に関する基礎的な知識や技術を身に付け、現代の技術の観察をふまえ、産業社会や生活文化における木構造に用いられる仕口の意義や役割を理解している。<br>b:木構造のうち、おもに在来軸組構法に用いられる仕口に関する基礎的な知識や技術をもとに、身近な建築物を観察し、自ら構想する建築物に適する仕口を適切に判断し、選択できる能力を身に付けるとともに、その成果を適切に発表できる。<br>c:木構造に用いられる仕口に関する基礎的な知識や技術に関心をもち、その習得にむけて意欲的に取り組むとともに、建築製図や建築構造など関連する科目に活用しようとする実践的な態度を身に付けている。 | 課題の作成状況<br>技術の習得状況 | 作業記録簿 | 振り返りシート |

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度